

## カムチャツカで越冬するオオハクチョウの調査

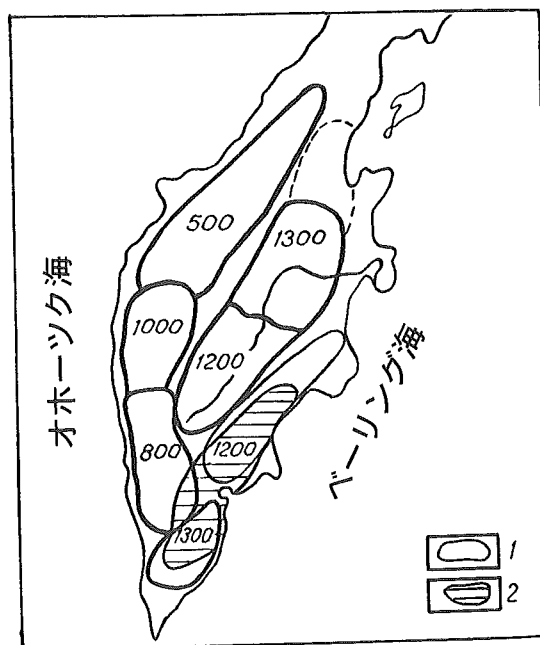
N. N. Gerasimov

カムチャツカの特別な自然条件により、この半島ではガンカモ類がいつも越冬できる。この地域にはすぐれた水系が発達している。その上、半島部の河川は極東大陸部の河川とは異なり、その大部分に特徴的なのは厳寒期にも流量が多く(30~40%)、そのため地下水により川の水が多いことである。このほか多くの要因が河川の氷の状況に影響し、半島の南部と南東部では太平洋が気象の緩和に大きく影響する。カムチャツカの冬に特有なのは、気温のプラスからマイナスまでの変化が激しいことで、ときどき雨が降る。多分、多くの温泉からの流入も河川や湖沼の水温に影響している。そのため、カムチャツカの大部分の河川の氷はいつもあるわけではなく、場所によってはないこともある。結氷しない河川やその支流の延距離は、数万kmになる。半島の氷のない空気に触れている水域では、動物が豊富で、冬でも水草が生育している。

カムチャツカで初めてオオハクチョウの越冬が明らかにされたのは、18世紀中頃である(Krashennikov 1948)。1950年代末~1960年代初めに、半島の豊かな自然が盛んに利用された。道路網ができ、新しい村ができ、盛んに狩猟場が開発された。昔からオオハクチョウが越冬していた場所は、人間が活動する地域となった。越冬する水鳥類の生息地を管理する必要性が生じてきた。

クロノツキー自然保護区で初めて、とくにガンカモ類調査が行われたは、

図1. カムチャツカにおけるオオハクチョウの越冬状況。1=1980年の調査地域、2=1984年の調査地域。数字は1980年における概数。



N. N. Gerasimov, Census of whooper swan wintering on Kamchatka. Swans in Japan (25): 26-29. (2001). [Rare birds of the Far East and their protection, 56-59. (1988), Translated from Russian]